

2024年7月5日
インフロニア・ホールディングス株式会社

第3回定時株主総会 事前質問へのご回答

2024年6月25日(火)に開催しました第3回定時株主総会の開催にあたり、株主の皆様より質問受付専用サイトにいただきました事前質問について、以下の通りご回答申し上げます。

1. 日本風力開発(株)の買収に関するご質問

(質問)

業績貢献の見通しについて

(回答)

2030年度までに、当社は事業利益1,000億円を達成することを目指しており、その半分である500億円はインフラ運営事業からの収益を見込んでおります。

さらに、このインフラ運営事業からの収益のうち、半分の250億円以上は、再生可能エネルギー事業によるものとして計画しております。

今後再生可能エネルギーの需要はますます高まり、環境価値は向上していくものと考えられます。

その中で、日本風力開発(株)の手掛ける案件について、保有し続け売電収入を獲得するのか、売却して売却益を獲得するのか、そのバランスは環境価値の高まりにもよりますが、現在開発中の案件が多く、2030年度には売電収入だけでも収益に大きく貢献できる計画となっております。

中長期的には大きく成長する可能性が高い事業だと期待しております。

(質問)

資本増強の具体的な方法について

(回答)

2024年1月に日本風力開発(株)の買収のため、2,184億円の短期借入を実行いたしました。長期目線で借り換えを行う必要があり、三つの観点で検討いたしました。

- ・将来的に金利が上昇する局面である
- ・格付維持のために資本の増強が必要である
- ・議決権の希薄化へ配慮する

まず2024年3月に、600億円のユーロ円建転換社債型新株予約権付社債であるグリーンCBを発行し、既に日本風力開発(株)の買収資金である短期借入金返済の一部に充当いた

しました。

ゼロクーポンでコストメリットがあることに加え、グリーンＣＢの発行にあたっては、長期間転換を極力抑制する転換抑制条項を設けることにより、既存株主の皆さまの議決権の希薄化へ配慮いたしました。

また、格付を維持しながら、希薄化へも配慮できる資金調達手法として、第３回定時株主総会において定款の一部変更を決議いたしました「社債型種類株式」も有用な選択肢であると考えております。社債型種類株式は会計上資本１００％となり、また議決権が無く、希薄化が起こらないという特徴を持った調達手法になります。

今後も市場環境などを鑑み、多様な資金調達手段を検討してまいります。

(質問)

今後の風力発電事業の取組方針について

(回答)

インフロニア HD や前田建設工業（株）が保有する設計・施工の強みと、日本風力開発（株）が保有する企画開発や売電・運営・維持管理の強みが一緒になることで、「開発・設計施工・売電・運営・維持管理」までを一気通貫で実施できる唯一無二の会社となる事ができると考えております。

(質問)

再度上場する予定について

(回答)

現時点では再上場する予定はございません。

2. 年次有給休暇の取得率について

(回答)

年次有給休暇の消化率についてご質問を頂きましたが、取得率と同義で捉えておりますため、当社グループにおける、年次有給休暇の取得率をご回答いたします。

インフロニアグループにおける、2023年度の年次有給休暇の取得率は65.6%になります。

各社において、働き方改革として、従業員が取得したい時に、取得できる職場環境を奨励しており、取得率は上昇傾向にあります。

以上